

壮春 力歩

ささや 竹の囁き

会長 鈴木 末一

いよいよ今年中に八十路を迎える。認知機能の低下傾向が気になりだした。脳の活性化、脳トレに励まなければと真剣に思うようになる。「きょうよう(教養)がある」「きょういく(教育)とところがある」。そうでなければ高齢化が進行するよと巷では言われている。指先を動かして末梢神経を刺激することは、脳の活性化に良いようだ。右脳と左脳をバランス良く働かせるようにすることも大切なのだと言われている。

ところで、ならやまプロジェクトに参加して早くも13年目になる。ならやま里山林には、真竹や孟宗竹などの竹林があり、放置すると、どンドンと遠慮会釈なしに周辺地に侵出してくるので、整備作業は欠かせない。景観Gでは冬場に間伐などの手入れを実施している。近年導入したチップパー機が威力を発揮し、切り出した竹材のほとんどは粉碎処分をしている。

大量の竹材を有効活用できないものだろうかと考えたが、干支クラフトやストラップ、竹とんぼやカスタネットなど、出展イベントの工作材料として以前から活用されてはいた。そこで、先達の方々のアイデアやネットで検索したものをヒントにして、ここ数年、試作というよりも模作に取り組んできた。

昨年11月中ごろ、ある会員さんから「Myサンタ」作りをしたい、材料の準備などを、と頼まれた。ほかの会員さんに呼びかけてもらったら、25名の方々が参加され、いずれもオリジナルでなかなかの秀作が出来上がった。これからもこのような“放課後教室”を開いて欲しいとの声も上がる。

リクエストに応えようと、テーマについて色々と思いを巡らせる。そのうちに、ふと思いついたのが、3月のひな祭りに向けての「Myお雛様づくり」であった。日程は2月中旬に設

定した。正月明けとともに試作品作りに没頭する。試作第1号をならやまへ持参し、ある会員さんにコメントをもらった。帰宅して直ぐに第2号に取りかかる。

今回も25名ほどの希望があり、余裕をみて30名分を準備する。当日ふたを開けると試作見本の5体を合わせて35体すべてが出払う。予期しなかったほどの反響である。ますます創作意欲がかき立てられる。

2カ月ごとに開催できれば、と考えた。さっそく4月には、端午の節句にちなみ五月人形(武者人形)にチャレンジすることにした。

今回の作品の最大のポイントは、兜のできにあると思う。従って、すべて同じものにならないようにするために、細工は皆さんお一人おひとりの個性で工夫を凝らしていただき、オリジナルなものに仕上げてもらおう。また、人形の左側には太刀を持たせることを共通に、右手には軍配、軍扇、采配のいずれかの自作のものを飾り付けてもらうことにする。

人形の頭や体や腕などそれぞれの部位にうまくマッチする竹材を調達する日々が続く。山積みされた竹の中から適当なものを探し出すのが大変である。「帯に短し、たすきに長し」であるが、使いこなすとうまく見えそうにもなってくる。小さな端くれで不要だから捨てようとする、竹が「まだ捨てないでくれ、ここに使ってほしい」とささやく。むろん、実際に声が聞こえるのではなく、ささやきに引かれるように指先が竹の端材へと伸びていく。兜の飾りつけを



していると、鋸や剪定鋏が色々な形のものを切り出してくれる。まるで竹のささやきに応えるかのように…。

いつまで続けられるかは解らないが、しばらくは、竹のささやきに耳を傾ける日々が続く。